

さまざまな能面

能楽に用いられる面は、約80種にのぼるといわれ、大きく分けて次のような種類があります。

翁	翁(白色、肉色) 三番叟(黒色) 父尉 延命冠者	
尉	老体	小牛尉(小尉) 阿瘤尉 朝倉尉 三光尉 笑尉ほか
	老舞	皺尉 舞尉 舞小尉 石王尉ほか
	強い老人	小悪尉 大悪尉 鼻瘤悪尉 驚鼻悪尉 茗荷悪尉 重荷悪尉ほか
鬼神	癡見	小癡見 大癡見 黒癡見 髭癡見 牙癡見 猿癡見 熊坂 長霊癡見
	飛出	小飛出 小飛出 大飛出 牙飛出 猿飛出 釣眼ほか
	その他	黒髭 顰 獅子口 野干 天神 小天神(怒天神) 不動ほか
男面	武将	中将 今若 十六 敦盛 平太 若男 頼政ほか
	少年	慈童 童子 喝食ほか
	男の霊	三日月 怪士 筋男(筋怪士) 鷹 阿波男 千種男ほか
	盲目	景清 弱法師 蟬丸
	その他	邯鄲男 俊寛ほか
女面	若い女	小面 孫次郎 増女 若女 万媚 近江女 増髪
	中年の女	深井 曲見ほか
	老女	姥 老女 小町 檜垣女ほか
怨霊	男	瘦男 蛙 二十余ほか
	女	瘦女 霊女 鉄輪女 泥眼 橋姫 生成 般若 蛇 真蛇ほか
妖精など	山姥 猩々 竜女 一角仙人	

『能・狂言辞典』(平凡社発行)より

能面名作選Ⅰ期では、このうち女性の面を展示しています。

年齢による表現の違い、狂気の度合いの表し方、同じ面でも微妙に異なる表情……など、さまざまな違いを見比べてみてください。

こおもて

小面

作者不明
江戸時代
(17 C 前半)
縦21.2cm
横13.4cm



まごじろう
孫次郎

作者不明
江戸時代
縦20.9cm
横13.9cm



ぞうのおんな
増女

作者不明
江戸時代
縦21.5cm
横13.5cm



小面(こおもて)の「小」は、若い・かわいらしいという意味で、年若い少女を表します。金春流では、主役の女性役に用いられます。能では、さまざまな年令や境遇の女性が登場するので、若く純真な女性、大人びて落ち着いた女性、気品のある天女、中年の女性、悲しみにくれる女性、怒りくってついに鬼になった女性など、さまざまな種類があります。頬や口元、瞳の形、髪の毛の筋、目に金色があるかないかなどによって、多様な性格の違いを表現し分けています。

でいがん
泥眼

作者不明
江戸時代
縦20.9cm
横13.5cm



しろはんにや
白般若

作者不明
江戸時代
縦21.8cm
横17.1cm



はしひめ
橋姫
越前出目家
江戸時代
(18~19C)
縦20.8cm
横15.3cm
面裏に焼印
「出目元休」



能では前半と後半で、主人公が姿を変えて登場します。

前半で、嫉妬と悲しみにくれる女性を「泥眼」をつけて演じ、後半では鬼と化した姿を「般若」をつけて演じます(「葵上」)。前半は美しい女性、後半で実は鬼だったという物語もあります(「紅葉狩」)。

まんび
万媚

作者不明
江戸時代
縦20.8cm
横13.3cm



はんにや
般若
児玉近江満昌(~1704)
江戸時代
(17C末-18C初)
縦20.9cm
横16.9cm
面裏に焼印
「児玉近江」陰刻印「側面符」



こおもて
小面
児玉近江満昌(~1704)
江戸時代
(17C末-18C初)
縦20.8cm
横13.4cm
金泥銘「小面満肥相合 / 児玉近江打之」



こおもて
小面
河内大掾家重(~1645)
江戸時代
(17C前半)
縦20.9cm
横13.4cm



こおもて
小面
河内大掾家重(~1645)
江戸時代
(17C前半)
縦21.3cm
横13.5cm
面裏陰刻銘「寄進 / 津々良吉左衛門 / 直吉 / 承応三年」焼印「天下一河内」昭和16年中村直彦氏修理



こおもて
小面
作者不明
江戸時代
縦20.8cm
横13.1cm



こおもて
小面
作者不明
江戸時代
縦20.8cm
横13.2cm



こおもて
小面
作者不明
近代
縦21.1cm
横13.4cm



しゃくみ
曲見
児玉近江満昌(~1704)
江戸時代
(17C末-18C初)
縦21.1cm
横14.4cm
面裏に焼印
「児玉近江」



しゃくみ
曲見
極・河内大掾家重(~1645)
江戸時代(17C前半)
縦21.3cm
横14.3cm
金泥銘「極河内作 / 直彦(花押)」昭和17年中村直彦氏修理



同じ種類の能面は、同じ約束事によって作られていますが、作者によって、表情が少しずつ違ってきます。